

# H3打ち上げ成功

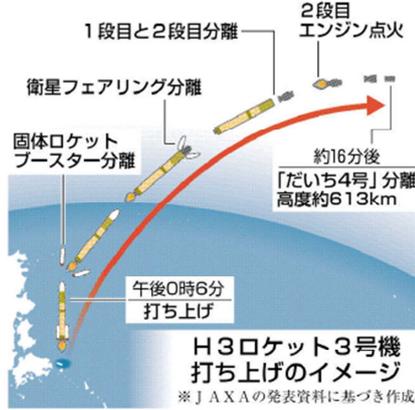
## 3号機 地球観測衛星を軌道投入

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は1日午後0時6分、国産新型ロケット「H3」3号機を鹿児島県の種子島宇宙センターから打ち上げた。災害の状況把握などに使う地球観測衛星「だいち4号」を目標の軌道に届け、今後の本格運用に弾みがついた。大型衛星の打ち上げ成功は、H3で3号機が初めて。

離陸の約5分後に第1段目を分離し約16分後に高度約613kmで衛星を切り離れた。衛星は正常に動作していることが確認された。H3開発責任者の有田誠プロジェクスマネジャーは同日記者会見し「100点滴の打ち上げだった。成功に安堵している」と述べた。H3はJAXAと三菱重工が開発した2段式の使い捨て液体燃料ロケットで「H2A」の後継機として日本の宇宙輸送を担う。国際宇宙探査「アルテミス計画」や世界初の試料回収を目指す火星衛星探査でも活用が決まっている。世界で需要が拡大する衛星打ち上げビジネスへの参入も視野に入れている。

昨年3月、1号機は2段目エンジンが点火せずに失敗、搭載した衛星「だいち3号」も失った。今年2月に成功した2号機は、1号機の失敗を受けて模擬衛星を載せていた。実用段階では年間6機のH3を打ち上げる体制を整える方針。

だいち4号は夜間や悪天候でも観測できるレーダーを搭載、災害による被災状況を、地震変動の把握に使う。一度に捉えられる範囲が従来機より広がり、火山活動、地盤沈下、地滑りなど、異変の早期発見が期待される。現在運用中のH2



▲ 7月2日 福島民友新聞掲載

地球観測衛星「だいち4号」を載せ、鹿児島県の種子島宇宙センターから打ち上げられるH3ロケット3号機  
 1日午後0時6分

Aロケットは2024年度中に50号機で運用を終え、25年度以降はH3に完全に移行する予定。

H3には、どんな活用が決まっていますか？

---



---

だいち4号には、どのようなことが期待されていますか？また、アルテミス計画とは何ですか？

---



---

記事を読んでどのようなことを考えましたか。まとめてみましょう。

---



---



---



---



---